

小学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

音

楽

東京都教職員研修センター

平成13年度

教育研究員（小学校：音楽）名簿

区・市名	学 校 名	氏 名
新宿区	戸塚第二小学校	○飯島満子
江東区	臨海小学校	高杉恭代
渋谷区	広尾小学校	◎小村七口子
杉並区	西田小学校	岡千恵
豊島区	清和小学校	山中美由紀
北区	第三岩淵小学校	阿部直子
江戸川区	篠崎第二小学校	田中秀人
八王子市	宮上小学校	倉谷礼子
昭島市	田中小学校	赤松恵子
調布市	北ノ台小学校	熊谷知子

◎世話人

○副世話人

（担当） 東京都教職員研修センター 統括指導主事 今 直樹

目 次

I	研究の概要	
1	研究主題設定の理由	2
2	研究のねらい	3
3	研究の方法	3
4	研究の構想図	4
II	研究の内容	
1	「身に付けた力」を把握すること	5
	(1) 身に付けた力を把握する実践事例	6
	(2) 音楽科の学習内容と音楽的要素の関連を重視した指導の例	8
2	身に付けた力を生かして、進んで音楽活動をするための手だて	10
	(1) 小集団活動	10
	(2) 児童と教師のための学習・記録カード	14
	(3) 児童の実態に合わせた教材化と一人一人に合った学習過程	17
	(4) 選択の場を多く設定した学習過程	19
	(5) 学習過程の明確化	21
	(6) 身に付けさせたい力を教師が提示し支援した指導事例	22
III	研究の成果と今後の課題	24

研究主題

身に付けた力を生かし、進んで音楽とかかわる子どもを育てる指導の工夫

Ⅰ 研究の概要

1 研究主題設定の理由

来年度から学校は完全週5日制となり、学習指導要領の趣旨・精神にのっとった新教育課程が本格的に実施される。小学校の音楽科では、教育内容の厳選と基礎・基本の徹底を図り、児童一人一人の個性を生かし、豊かな人間性を育むことがことのほか重要となる。

私たちは研究に先立ち、この課題を踏まえ幾多の議論を交わした。その結果、研究員全員が「どの子にも音楽とかかわる喜びを与えたい。そして心豊かな人間に成長してほしい。」という共通した願いをもっていることが分かった。そして、この願いの実現を図るためには、その素地をつくり上げる小学校の音楽科教育が大切であり、一時間一時間の授業における楽しい学習展開の中で基礎基本を確実に習得し、自ら進んで音楽とかかわるための能力や態度を育成することが肝要である。

基礎・基本の習得は児童自身が音楽のよさや美しさを感じ取り、表現への意欲を高めたり、自分のよさや可能性を発揮して進んで音楽活動したりすることと深いつながりがある。授業においては、何よりも一人一人の児童が大切にされ、そのよさが生かされる楽しい音楽活動ができることを願い、身に付けた基礎・基本の力を土台としてどの児童も進んで音楽とかかわっていけるよう、個に応じた学習形態の工夫について研究した。そのため、教師の指導のねらいを明確にするとともに、児童の願いを把握することの重要性に立ち返った。

この研究では、まず、音楽活動に必要な基礎的・基本的能力とは何かを学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえて的確に把握し、児童が今までに身に付けてきた能力の実態をできるだけ明確にすることにより、研究を具体的に展開することとした。また、基礎的・基本的諸能力の習得については、複数学年での弾力的な扱いとともに、小学校6年間を見通した各学年の指導計画を作成することとした。さらに、このようにして身に付けた力を生かして、進んで音楽とかかわる児童を育てるための手だてとして、一人一人の感じ方やよさを生かせるような様々な学習形態の工夫や複数の学習過程の設定を試みようと考えた。これは、一人一人の児童が充実感や喜びを感じ、次へのステップを楽しみにしながら活動できるようにするためである。このことは、児童が自分の力を見つめ、学習の内容や方法を判断し、さらに自ら音楽を追求し続けようとする力を育てることにもつながると思われる。

これらの考えから研究を進めるに当たり、目指す児童像を次のようにとらえた。

- ①音楽のよさや美しさを感じ取り、自らそれらを追求する子
- ②これまでに身に付けた基礎的な能力を生かし、進んで音楽活動する子
- ③自分の思いや願いを音楽で表現することに喜びを得ようとする子

このように、児童が自分のもっている力を生かし、音楽を感じ、表現し、更なるステップへ進もうとする児童を育てたいと願って本主題を設定した。

2 研究のねらい

児童の基礎的な能力の確実な定着は、身に付いた能力の把握→個の能力が生かされる→進んで音楽活動するという展開の中から図られるものである。したがって、教師には、この学習過程の一つ一つを児童がいかに自分の活動としていくことができるようにするかが求められている。

(1) 身に付けた力の把握

- ① 意識調査や観察などを通し、児童一人一人がこれまでに身に付けている力や新しく身に付ける力を情意面、技能面から的確に把握する。
- ② 題材を通して新しく身に付けた力を分析し、児童自身がその力を生かし、さらにどのような音楽に発展させようとしているかを把握し分析・考察する。

(2) 一人一人が伸びる授業構想

児童が、自分の力を生かして進んで音楽とかかわっていくために次の点を重視する。

- ① 小集団の有効な活用
- ② 児童に分かりやすい学習過程の明示
- ③ 児童による効果的な学習方法の選択及びスモールステップ方式の活用
- ④ 児童の学習カードによる学習過程の見直し

3 研究の方法

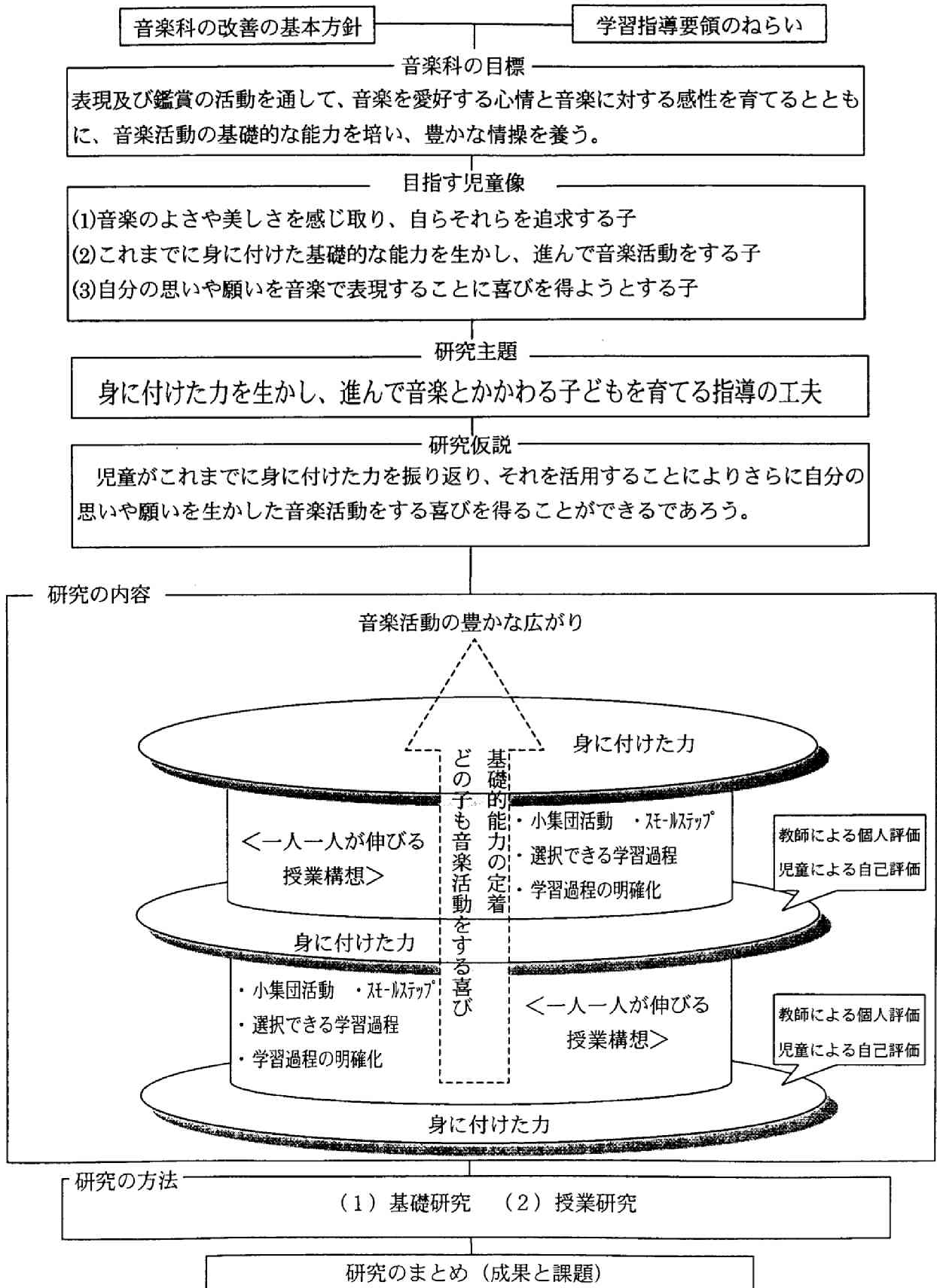
(1) 基礎研究

- ① 先行事例の研究 ② 文献研究 ③ 児童の実態把握と分析・考察 ④ 年間指導計画の作成

(2) 授業研究

- ① 授業を行い、研究の2つの視点についての効果的な方法を探る。
- ② 授業記録や児童の活動を分析・考察し、効果的な教師の指導を探る。

4 研究の構想図



II 研究の内容

1 「身に付けた力」を把握すること

一人一人の児童は、様々な個性やよさをもっている。その個性やよさが十分に伸ばされ、より主体的に音楽とかかわっていくためには、児童の成長に教師が見通しをもって指導していくことが必要である。そのために私たちは、「身に付けた力」を把握することに着目し、次の3つの点を検討した。

(1) 「身に付けた力」の見通しについて、次の3つの学習過程（プロセス）を設定した。

- ① これまでに身に付けた力・・・これまでの音楽活動や日常生活の中で身に付けてきた力であり、現在学習中の題材で音楽活動をするために必要な力
- ② 今身に付けようとしている力・・・現在学習中の題材の中で身に付けていく力、身に付きつつある力
- ③ これから身に付けたい力・・・音楽活動をさらに発展させていくために身に付けていきたい力

(2) 上記の3つの力のうち、「すでに身に付けた力」については、児童がそれを把握してこそ、次への課題を見つけたり、取り組もうとする意欲が生まれてきたりする。

児童自身による把握については、自分が興味を持っていることや音楽に対する思いや願いを考えること、また、自分にできることとできないことを考えることなど、自分を見つめ直すことを通して、現在自分のもっている力を再認識することができる。また、そこから自分が学習すべき目当てを見つけることができると考える。

教師による把握については、児童一人一人の意識や技能面での力を再確認することで、個に応じた指導法を工夫することができる。また、それらの力が明確になれば、日々の授業において、児童が、より主体的な音楽活動を展開できると考える。

(3) 身に付けた力は、情意面と技能面の2つの面からとらえる必要がある。その把握の方法としては、次のようなことが挙げられる。

- ① 情意面においては、学習記録カード、観察、意識調査のアンケートなどが考えられる。
- ② 技能面においては、学習指導要領に即して、それぞれの学年の発達段階に沿った内容を考え、把握していくことが考えられる。特に、各題材においてその時までにはできていることと、できていないことを把握することも大切である。

このように観察や意識調査などを通して、情意面と技能面の両面から一人一人の児童にどのような力が付いているのか、どのような方法で身に付けてきたのか、どのような音楽活動ができるのかを教師が知ることは、学習計画や年間指導計画を立てる上で不可欠である。また、身に付けた力を把握していくことは、年間指導計画を実施していく上で、計画を振り返ったり、指導内容や指導方法などを修正したりする際にも重要であると思われる。

以上のように児童が身に付けた力を児童と教師それぞれが把握することは、児童一人一人が、その力を生かして充実した、より豊かな音楽活動ができるようにすることへとつながる。

(1) 「身に付けた力」を把握する実践事例（授業前）

ア「身に付けた力」のアンケート その1

前章で述べたとおり、児童がこれまでに身に付けた力を把握するためには、観察の他に児童対象のアンケート調査が考えられる。下記の表は、授業を行う前にアンケートを実施し、その結果をまとめたものである。

児童	教師の観察					アンケート				
	意欲	音程	発声	声量	表現	か 自分の声は好きです	か 歌うことは好きです	です 一人で歌うのが好き	なり 一人で歌えるように	です 歌が好きになりたい
1						ふつう	ふつう	きらい	いいえ	いいえ
2	○					きらい	すき	きらい	いいえ	すでに
3						きらい	きらい	きらい	いいえ	いいえ
4						きらい	すき	すき	はい	はい
5	○					きらい	すき	すき	はい	はい
6				△		すき	すき★	すき★	はい	はい★
7						きらい	きらい	きらい	いいえ	いいえ
8						きらい	すき★	すき★	いいえ	はい
9				△		すき	すき★	すき★	はい	はい
10		○				きらい	すき	きらい	はい	はい
11	◎					きらい	すき	きらい	はい	すでに
12				△		きらい	きらい	きらい	はい	はい
13				△		すき	すき★	すき	はい	はい
14						ふつう	ふつう	きらい	いいえ	いいえ
15						きらい	きらい	きらい	いいえ	はい
16				△		きらい	ふつう	きらい	いいえ	はい
17		○	地声			ふつう	きらい	きらい	いいえ	はい
18						ふつう	きらい	きらい	いいえ	いいえ
19	◎					すき	すき	すき	はい	はい
20	○	○				すき	きらい★	すき	いいえ	はい
21						きらい	すき	きらい	いいえ	ふつう
22	○				◎	すき	すき	すき	できる	すでに
23						すき	きらい	すき	いいえ	いいえ
24						ふつう	ふつう	きらい	いいえ	いいえ
25						きらい	きらい	きらい	はい	はい★
26						ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	ふつう
27		△		△		きらい	ふつう	ふつう	はい	ふつう

- …良い
- ◎…大変良い
- …もう少し
- △…まだまだ
- ★…教師の予想と違った児童

【考察】

- ・歌うことに対する児童の思いと教師の思いの相違点が明らかになった。
- ・児童が今身に付けている力（情意面と技能面）が明らかになり、そこから題材目標を設定することができた。
- ・アンケートや分析の項目については、文章の表現や身に付けた力の細かな言い表し方について、まだ不十分さが残っている。さらに研究を続け、より信頼性のあるものとしてほしい。この点が解明されれば、題材のねらいや評価規準を立てる際に大きな参考となると思われる。

イ 「身に付けた力」のアンケート その2 (授業後)

前節のアンケートをもとに授業を行い、授業後に再びアンケートを取り、その結果をまとめたものが下記の表である。

児童	教師の観察					アンケート				
	意欲	音程	発声	声量	表現	歌が好きになりましたか	友だちの声を聴きながら歌えましたか	気持ちよかったですか	声のでるようになりましたか	また歌の発表をしてみたいですか
1						いいえ↓	ふつう	ふつう	ふつう	いいえ
2	○			↑		はい	はい	ふつう	はい	いいえ
3		○		↑		ふつう↑	ふつう	ふつう	ふつう	いいえ
4						はい	はい	はい	ふつう	いいえ
5	○					ふつう↑	はい	ふつう	はい	はい
6	↑			↑		はい	はい	はい	はい	はい
7	↑					ふつう↑	はい	はい	ふつう	いいえ
8	○			↑		ふつう	ふつう	ふつう	ふつう	いいえ
9				↑		はい	はい	はい	はい	はい
10						はい	はい	はい	はい	はい
11	◎				○	はい	はい	はい	はい	はい
12	↑					ふつう↑	はい	いいえ	ふつう	いいえ
13						ふつう↓	はい	いいえ	いいえ	いいえ
14						はい	ふつう	はい	ふつう	いいえ
15	↑			↑		はい↑	はい	ふつう	はい	いいえ
16						ふつう	ふつう	はい	ふつう	いいえ
17			歌う声			ふつう↑	ふつう	ふつう	はい	はい
18	↑			↑		いいえ	ふつう	いいえ	いいえ	いいえ
19	◎	○				はい	はい	はい	はい	いいえ
20	↑	○		◎		ふつう↑	いいえ	はい	はい	はい
21						ふつう↓	はい	はい	はい	いいえ
22	○					はい	はい	はい	はい	はい
23						ふつう↑	いいえ	はい	ふつう	いいえ
24						はい↑	ふつう	ふつう	ふつう	はい
25						ふつう↑	はい	はい	はい	いいえ
26	↑			↑		ふつう	はい	ふつう	ふつう	はい
27	↑	△				はい↑	はい	はい	はい	はい

○…良い

◎…大変良い

⊙…もう少し

△…まだまだ

↑…事前アンケートより上がった

↓…事前アンケートより下がった

↑…事前アンケートより大変上がった

【考察】

- ・児童の歌に対する意欲や技術が向上したことがよく現れている。また、児童自身が自分たちの意欲や技術だけではなく、友達の意欲や技術にまで関心を寄せていることが非常に興味深い。
- ・自分がこの題材でどのような力を付けたのかが自覚しやすい。このアンケートの結果は、自分がさらに何を身に付けるべきか、あるいは、これから音楽活動をどのように発展させられそうかなど、これから身に付けたい力を考える上でのヒントとなっている。

(2) 音楽科の学習内容と音楽的要素の関連を重視した指導の例 ※次頁に続く

項目 学年	焦点を当てた音楽的要素と活動例		記号	表
				歌 唱
1 ・ 2 学 年	拍感 リズム感 ・拍打ち ・リズム打ち ・リズム唱 ・リズム譜 拍子感 ・バッテリー奏	音程感 フレーズ感 ・階名で模唱・暗唱 ・ふし問答(ミレドラ、) 順次進行、2度・3度音程 聴いたふしを模倣して歌う ・ふし問答(ソミレドラ、) 順次進行、2度・3度音程 聴いたふしを模倣して歌う	$\frac{4}{4}$ $\frac{2}{4}$ 一線譜 三線譜	歌声・発音 歌詞の情景 ・斉唱 ・交互唱 ・輪唱
3 ・ 4 学 年	拍の流れとフレーズ感 ・リズム問答 聴いたリズムを模倣して 叩く ・リズムオスティナート ・簡単な リズムアンサンブル	音程感 フレーズ感 ・ふし問答(ソミレドラ、) 跳躍を含む4度5度音程 聴いたふしを模倣して歌う 続きのふしをつくって歌う 音階と調性 ・ハ長調の視唱・視奏 ・日本のふし ・5音階のふし	♩ 五線譜 $\frac{3}{4}$: : タイ ♩	呼吸・発音 自然な声 歌詞の内容 ・交互唱・輪唱 ・部分二部合唱 ・簡単な二部合唱 ※例 P22 『ぼくらのクラス』 『ぼくら』
5 ・ 6 学 年	拍の流れとフレーズ感 音の重なり ・リズムカノン ・リズムアンサンブル おはやし 世界の伝統音楽	・イ短調の視唱・視奏 音の重なり・和声の響き ・長調(IIVV) 音階と調性 ・日本のふし ・長音階 ・短音階 ・半音階	$\# \flat \natural$ f mf mp p (スラー) D.C. Fine $\frac{6}{8}$ $\ll \gg$ ♩ $\text{♩} = 96$	呼吸・発音の工夫 自然な声、豊かな響き 歌詞の内容 ・輪唱(二声・三声) ・二部合唱 ・三部合唱 ※例 P18 『ありがとう』

現 (小学校学習指導要領の内容との関連から)		鑑賞 (小学校学習指導要領の内容との関連から)
器楽	つくって表現	
身近な楽器 簡単なリズムや旋律を演奏 ・既習の楽器 カスタネット・タンバリン すず・トライアングル 小太鼓・大太鼓 鍵盤ハーモニカ オルガン・木琴・鉄琴 ミュージックベル	リズムをつくる ・音あそび ・リズムあそび ・音づくり ・リズムづくり ・音さがし	リズム、旋律及び速さ、音色 情景を思い浮かべやすい曲 行進曲・踊りの音楽 身体表現 親しみやすい曲
音色に気を付けて 簡単な重奏や合奏 ※例 P10 『はらけり』 ・既習の楽器 旋律楽器・打楽器 リコーダー・アコーディオン 電子楽器・和楽器 民族音楽 リズム伴奏を生かした合奏 ・ラテン音楽	音や組み合わせの工夫 リズムや旋律をつくる ・ふしあそび ・楽器遊び ・リズム伴奏あそび ・ふしづくり ・リズム伴奏づくり ・音えらび	音楽の要素・音色の特徴 それらの組み合わせ 聴く楽しさを得やすい曲 劇・管弦楽・郷土の音楽 独奏、合奏を含めたいろいろな種類・様々な演奏形態による楽曲
音色の特徴を生かして ※例 P19 『ラバースコンチェルト』 重奏・合奏 小編成・大編成 様々な形態 ・既習の楽器 旋律楽器・打楽器 和楽器・民族楽器 管楽器・電子楽器	曲の構成を工夫 創造的な表現 ※例 P19 『ラバースコンチェルト』 ・リズムアンサンブルづくり ・I IV Vの和音によるふしづくり ・おはやしづくり ・即興表現	音楽の要素と曲想とのかかわり 音色・音や声の重なりによる響き 聴く喜びを得やすい曲 歌曲・室内楽・我が国の伝統音楽、諸外国に伝わる音楽、独唱、合唱、重奏を含めたいろいろな種類・様々な演奏形態による楽曲

2 身に付けた力を生かして、進んで音楽活動をするための手だて

(1) 小集団活動

音楽活動をする上での学習形態は様々であるが、互いに励まし合い認め合う友達とのかかわりを通した中で、一人一人の児童の身に付けた力が生かされ、進んで音楽にかかわっていきけるのではないかと考え「小集団活動」を取り入れた。なお、「小集団」は、一人一人の児童の能力を考慮した上で児童3～5人で構成した。

ア 小集団活動で育つ力

(7) 社会性を育てる

児童は、自分の行動や態度が友達に受け入れられたり、あるいは受け入れられなかったりする経験を重ねながら様々なことを習得していく。例えば、相手がどのような立場に立ち、何を考え、自分に何を期待しているかを察知することもできるようになる。さらに、感謝する心、困っている友達を思いやったり援助したりする心、共通の目的を達成しようと協力し合う心などを学ぶことができる。さらに、互いに励まし合い、認め合う音楽活動を進めることによって温かい雰囲気の中で音楽活動ができるようになり、一体感や安心感が育つ。

(4) 自分自身を客観的に捉える

友達と音楽活動をするを通して、自分にとっては難しい曲を容易に演奏できる友達がいることを知ったり、自分自身や友達の能力の特徴や違う考え方のよさを知ったりすることができるなど、児童が、自分と音楽とのかかわりを見つめ直す機会となる。

(6) 思考力や判断力、技能の向上

自分の努力が認められ、よさを発揮していくことによって友達から共感が得られ、自分のめあて達成への援助が得られる。そのことによって演奏技能が向上し、さらに友達からの称賛や励ましを受けて意欲が持続し、技能的にも伸びることができる。また、児童が積極的に教え合っている内容のほとんどは、演奏技能や奏法、歌い方や練習の仕方の工夫についてである。これらによりさらに技能が高まったり、奏法や歌い方が上達したりして、より音楽の楽しさを味わうことができるようになると考えられる。

また、話し合い、教え合う活動など友達とのかかわりが充実してくると、技能を習得した児童は、まだ習得していない児童を「過去の自分」として見ることができるとともに、逆に「未来の自分」の姿も見ることができるようになる。このように、友達の立場になって考えていくことにより、技能的なことに関する話し合いや教え合い、あるいは課題解決に向けての練習の工夫などが活性化されると考える。

イ 実践事例1 (第3学年 器楽)

(7) 題材名「音を重ねて合わせよう」

(4) 題材のねらい

- ・音が重なる響き合いの美しさに気付き、表現の工夫ができるようにする。
- ・友だちと協力し合って演奏したり、聴き合ったりする楽しさを味わう。

(h) 教材「きらきら星」

(i) 学習内容

- ・第一次 イメージを感じながら拍の流れにのり、音色に気を付けて演奏する。
- ・第二次 音の響き合いの美しさを目指した表現の工夫をする。
- ・第三次 自己評価や相互評価をしながら表現したり聴き合ったりする。

(j) 学習計画

次	時	主な学習活動	グループの学習の様子
第一 次	1	・主旋律を歌詞唱や階名視唱し、リコーダーやグロッケンで演奏する。	教師が一人一人を見取り、小集団をつくる A児（友だちにリズムや読譜を教えることができ、リコーダーの演奏技能が高い。） B児（学習に意欲的に取り組み、読譜やリコーダーの運指は自分の力でできる。） C児（歌は意欲的に歌うが、リコーダーに対しては苦手意識をもっている。）
	2	・副次的旋律を歌詞唱や階名視唱し、リコーダーやグロッケンで演奏する。	
第二 次	3	・小集団の中で、一人一人が自分のめ	— C児のつぶやき — 「音がわからないからリコーダーが吹けないよ、つまらないな・・・」 C児の学習カードの『楽しさ』の項目が「もう少し」だった。
	4	あての練習をする。小集団の中で互いに聴き合い、評価し合う。 (チャレンジカード使用)	教師の支援 「〇さん、△さん、□さんが困ってるみたいだから、次の時間、リコーダーの指使いや音を教えてあげてくれる？」 A児の活動 ----- B児のことは掛け 階名を教える、歌ってあげる、 「ゆっくり吹くといいよ、がんばろう。」 C児の手を取り運指を教える。 ※C児の学習カードの『楽しさ』の項目が「はい」になった。 — C児の感想 — 二人がやさしくおしえてくれて、少しふけるようになってうれしいです。 教師の支援 「〇班で優しく教えてもらって上手になった友だちがいるよ。」とみんなに紹介する。
第三 次	5	・ふしの重ね方や楽器の組み合わせを	----- B児の様子 ----- A児の活動 ----- みんなとリズムが合わな C児に、B児の肩に手でタンタンと くて、首をかしげる。 リズムを取らせ、自分と一緒に吹いてい た。
	6	話し合い、ふしを重ねて合わせる。 ・小集団や小集団相互でふしを重ね、演奏を聴き合う。	教師の支援 「拍の流れにのるために、工夫して練習しているよ。」と紹介し、練習している様子を見せる。 ～他の小集団の演奏を聴いての感想～ ----- A児 ----- B児 ----- C児 ----- メロディーを8分音 リズムが合ったか 符に細かくしたのが ら音が重なってきれ すごい。私もやって ーい。 みたい。 3人で一生懸命、協 力して音を合わせて た。
	7	・みんなでふしを重ねて演奏したり聴き合ったりする。	

ウ 実践事例2 (第6学年 歌唱)

(7) 題材名「歌声を合わせよう」

(i) 題材のねらい

- ・自分の声や友だちの声を聴いたり、一緒に歌ったりしながら、自分の持ち味を生かして表現の工夫ができるようにする。
- ・友だちと協力して歌ったり、聴き合ったりして、合唱の美しさを味わう。

(ii) 教材「歌よありがとう」(同声三部合唱)

(i) 学習内容

- ・第一次 全体の曲想やパートの特徴を感じ取って歌う。
- ・第二次 互いの声の響き合いを感じ取って歌う。
- ・第三次 表現の向上への見通しをもって一人や小集団で活動をする。

(ii) 学習計画

次時	主な学習活動	グループの学習の様子
第一次	1 第2	<p>教師が一人一人を見取り、小集団をつくる</p> <p>A児 正しい音程で歌え声も出せるが、自信が足りない</p> <p>B児 歌に興味があり、学習に対して意欲的に取り組む</p> <p>C児 変声期を迎え、歌を歌うことに苦手意識がある</p> <p>D児 歌うことが好きだが、音程やリズムが合っているのか不安に思っているから取り組む</p> <p>E児 リコーダーや歌など、できた時の楽しさを感じ始めている</p>
	3 第4	<p>この学習が終わったとき、こんな自分になりたい(目標)</p> <p>A児 音程を正しくしたい、自信をもって歌いたい</p> <p>B児 高い声できれいに歌う。大きい声で歌う。</p> <p>C児 大きい声で歌えるようにする。</p> <p>D児 大きな声で上手に歌う。</p> <p>E児 楽しく歌う。</p> <p>C児 D児のつぶやき 「恥ずかしくて歌えないな・・・」</p> <p>E児のつぶやき 「どこから始めたらいいんだろう・・・」</p> <p>教師の支援 「ピアノで音をとってあげると歌いやすいね 最初に全員で歌ってから順番で歌ってみるといいよ」</p> <p>B児の活動 ピアノを弾き、音を確認していた</p> <p>A児の活動 「恥ずかしがっているCDEに「一緒に歌ってみよう」と声を掛ける。</p> <p>E児の感想 「高い声は出せなかったけど、音程は合ってきたからよかった」</p>

次	5	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団で各パートを重ね合わせる練習をする。 ・小集団相互で聴き合う。(学習2) ※15ページ参照 	<p>次は〇さんのように堂々と歌ってみよう。</p> <p>~~~~~ C児の感想 ~~~~~</p> <p>低い声はみんなと合わないと思ってたけど、先生に「音の幅ができて音楽が広がる」と言われ、少し自覚もできた。音を正しく歌いたい。</p> <p>----- D児のつぶやき -----</p> <p>相手の班の歌がどうだったか、自分の意見を言えなかった・・・</p> <p>教師の支援 声の大きさ、口の開け方、音程、響き、パートのバランスなど、どれか一つでもから注目しよう。</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・三声部をリコーダーで吹き、響きをつくる。 	<p>----- D児の様子 -----</p> <p>「声が出ない」と言う他の班のFさんに「もう少し口を開けて姿勢をよくしてみたら?」とアドバイスしていた。</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・三声部を歌う。 	<p>----- A児の活動 -----</p> <p>(相手グループ) 音程は合っているけどもう少し声が出そうだな。おなかを使うと結構出るよ。</p> <p>※聴くポイントがはっきりし、活動が活性化した。</p>
第	8	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの小集団が活躍する部分を分担したりして、歌い合ったり、聴き合ったりしながら、クラス独自の「歌よありがとう」をつくり上げる。 	<p>----- みんなで歌い合ってみての感想 -----</p> <p>A児 自覚もてるようになった。</p> <p>B児 ハモってる時、なんかきれいだなと思った。楽しかった。</p> <p>C児 大きい声で歌えてよかった。</p> <p>D児 みんなだんだん声が強くなってきた。</p> <p>E児 音程が合ってきた。楽しかった。</p>
三	9		
次			

エ 考察

小集団活動を取り入れることによって、友達の良いところを見つけたり、一人一人に合ったアドバイスを伝えたりして、互いに認め合い励まし合う姿が多く見られるようになった。また、学習カードからも分かるように、どちらの事例でも「楽しさ」「よさを認める」の項目では、児童の意識が高まる傾向が見られた。これは、3年生の器楽の事例では「3人で一緒に合わせて合奏する」、6年生の歌唱の事例では「自分たちの歌声を重ねて響き合わせる」という、どちらも共通の目的をもつことができたために、児童が小集団としての仲間意識をもち、一人一人の役割や責任感が自然とでき上がっていったためと思われる。また、これらの活動を通して一人一人の技能も伸びた。これもやはり、小集団における友達との温かく支持的な雰囲気の中で、楽しさに溢れたかかわりがあったためであろうと思われる。

(2) 児童と教師のための学習（チェック・指導）カード

学習（チェック・指導）カードの項目は、児童が進んで音楽とかかわろうとする気持ちや教師が身に付けさせたい能力も含まれる。また、自己評価によって活動を振り返るための学習（チェック）カードは、児童が音楽活動を進んで行う上で効果があった。

児童は、各項目を自己評価することによって、次の学習のめあてをもつことができる。また、教師は、毎時間の一人一人の学習（チェック）カードから児童の実態を把握し、次時への指導につなぐことができる。

ア 実践事例（第3学年 器楽）

(7) 学習（チェック）カード

今日の音楽は楽しかったですか。	自分のめあてにむかってがんばりましたか。	音楽を自分なりに考えながら取り組みましたか。	友だちとのかよく音楽できましたか。	友だちのよいところやがんばりを見つけられましたか。	次の時間のめあてをやってみたいことを書きましょう。
・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	リコーダーもきれいにふけるようになりたい。
・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	Kちゃんが、あたらしい音とか音楽とかかできていいなと思いました。
・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	E子ちゃんとKくんがやさしくおしえてくれたのでじょうずにふけたよ。
・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	・はい ・ふつう ・もう少し	きょうわたしはおひめをひけました。

↓ 楽しさ

↓ (めあてにむかって)

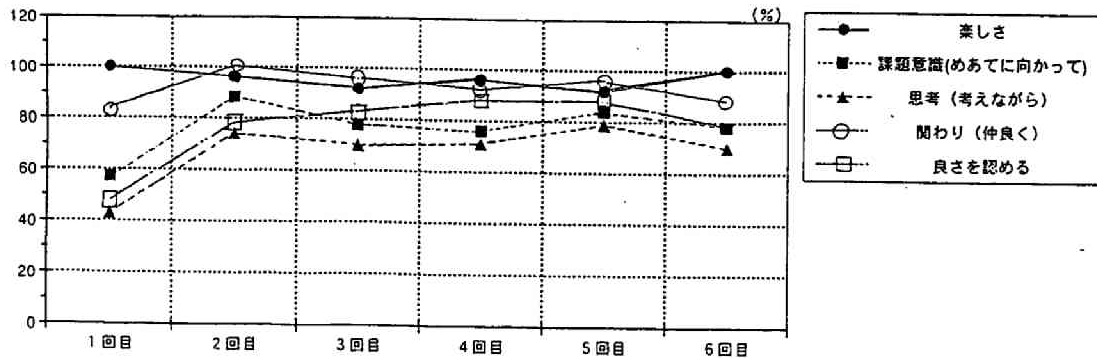
↓ 課題意識

↓ (考えながら) 思考

↓ (仲良く) かかわり

↓ よさを認める

(1) 学習（チェック）カード集計グラフ



イ 実践事例 (第6学年 歌唱)

6年生の歌唱の学習活動で、学習(計画)カード「未来の自分にむかって!」を活用し、児童が見通しをもって学習計画を立てることができるようにした。

このカードにより、児童は学習を通して「自分はこうなりたい」という目標を立てその達成のための課題をもち、学習計画をつくることができた。このことにより、児童は学習の取り組みへの意欲をもち、進んで音楽とかかわることができた。

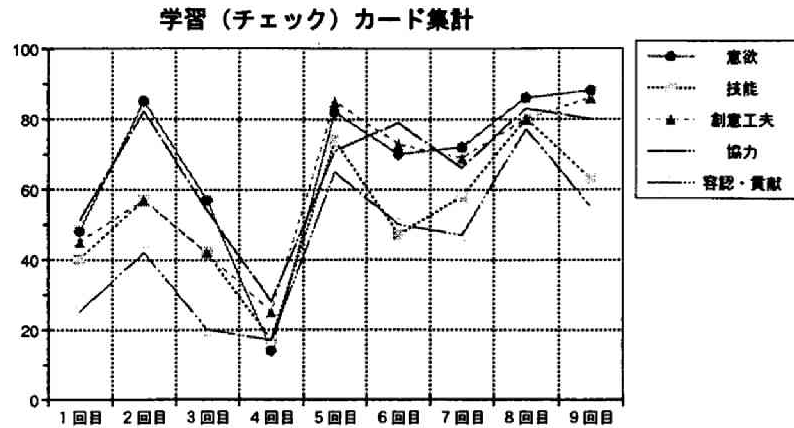
(7) 学習(計画)カード

目 標							
音程に気をつけて大きな声で歌う							
日時	練習第一回目 9/21	練習第二回目 9/28	9/29	10/5	10/6		
課題	音程を合わせる	大きな声で	.	.	.	自信をもつ	はもらせる時相手の音をよく
活動 修正 可	今日は、みんなはずかしがってやらなかつたけど、次は、はずかしがらないで頑張ります!!	今日は、シーがなくなるまで頑張りました。次は全組みんなで声を出して歌えよう!	今日は、学習シールが全組つくりました! でも時々、音がなくて、男の子が、声を出さなかつた。少し、自信をもてるようになった!	今日は、判定する方が難しかったです。失敗したけど、次は頑張ります!	みんなの前で歌うのは、すごく自信をくれた。練習2でも、3組ともうまくやってくれました!		
	期待しています!	進歩してるんだね。	すごい! 進歩してるよ!	みんな、頑張るよ!	いろんなアドバイスも、ありがとう。できるようになるまで、頑張るよ!		

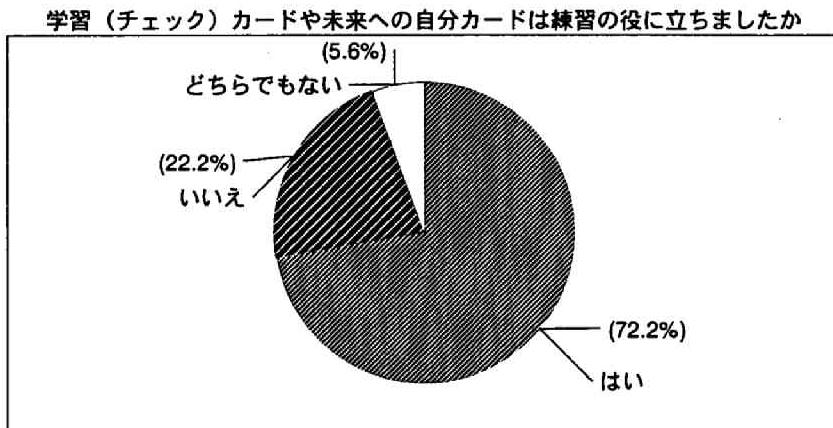
(4) 学習(チェック)カードの集計(途中経過)

		1	2	3	4	5	
意欲	1. 今日の音楽は楽しく取り組みましたか。	はい 48% ふつう 34 もう少し 14	85 14 0	57 34 8	14 68 20	82 17 0	
	技能	2. 今日の課題を達成することが出来ましたか。	40 28 31	57 31 11	42 34 8	17 42 40	74 22 5
		創意工夫 (例) 一緒に歌う	3. 音楽の活動を自分の仲間と工夫しながら取り組みましたか。	45 40 14	57 37 5	42 40 17	25 42 31
協力			4. 仲間と協力しあって音楽活動ができましたか。	51 34 14	82 14 0	54 31 14	28 54 17
	容認、貢献 (例) アドバイス、拍手、補助、笑顔、称賛、励まし	5. 仲間の良さに気づいたり、良さを生かしたりすることが出来ましたか。	25 57 17	42 48 8	20 57 22	17 48 34	65 22 11
次の指導 ← 分析・考察 ← ← ←		<p>初めて学習1をする。練習の仕方を知った。</p> <p>学習1の練習の仕方が分かってきた。</p> <p>学習1と学習2の予備練習をした。</p> <p>学習2のイメージをもつために、全員で学習2のやり方の説明が長くなってしまうか?</p>					
		<p>お手本合唱隊に歌ってもらおう。どんなポイントで練習するか示す。学習2の練習の仕方が分かってきた。</p>					

(h) 題材終了後の学習（チェック）カード 集計



(i) アンケートの結果



児童の感想

【はいの理由】

- ・先生が一言書いてくれるのがうれしかった。
- ・やり方が分かった。
- ・頑張ろうという気持ちになれた。
- ・来週はこうやろうとか目標に近くなったとか思えたから。
- ・次にどんなところを

注意したらいいのか分かった。 ・これを見ればその日の様子が分かるから ・目標を達成できたから ・どういう風に変ったのかわかるから。 ・楽しいから

- 【いいえの理由】
- ・あまり使わなかった
 - ・いやでもやらなければならなくなるから
 - ・楽しくない

(j) 考察

学習（チェック）カードによって児童が自己評価を行うことにより、学習の取り組みへの意識を高めたり、教師がその児童へどのような支援をしたらいいか観点が明確になったりする。

実際の授業の中では、「もう少し」に印を多く付けている児童や班に対して困っていることを確認し、解決方法をともに考えたり励ましたりすることによって活動の意欲を持続させることができた。また、学習（チェック）カードは、授業の中で児童一人一人が何を考え、どうしたいと思っているのかを、毎時間理解するための手掛かりとなった。さらに、児童の活動自体が、教師の支援の在り方を振り返ることにもつながり、授業の進め方の見直しにもなった。

(3) 児童の実態に合わせた教材化と一人一人に合った学習過程（スモールステップ）

児童が、今もっている力を生かして進んで音楽とかかわっていけるように、児童の実態に合わせて楽曲を教材化した。そうすることにより、児童が、自分の身に付いた力をもとに学習の流れを組み立てることができる考えた。

ア 実践事例（第3学年 器楽）

「きらきら星」のメロディーをみんなで演奏できるようにするだけではなく、一人一人の実態を把握した上で、どの児童も楽しく進んで演奏できるパートや楽器の選択を教師がアレンジした。それでも、難しさを感じてしまう児童には、さらに演奏し易い楽器に替えたり、簡単な旋律にしたりすることが必要であった。また、最後まで演奏できたことをのみを評価するのではなく、個に応じ、一小節でもできたら評価することにより、できた喜びを得、そのことが進んで音楽活動をしようという意欲につながっていった。また、学習カードを「チャレンジカード」（資料1）と名付け、合格したところからシールなどで記していった。こうすることにより、自分の学習成果が分かり、「もっとやりたい」という意欲や「合格するために練習しよう」という向上心にもつながった。

（資料1）

（資料1）

「きらきら星」チャレンジカード

☆〈きらきら星〉の3し (おわり)	☆〈お姫星〉の3し (おわり)
 もどる	 もどる
リコーダーでひけたよ 	クロックンでひけたよ
☆〈ひび星〉の3し (おわり)	☆〈オロロ座〉の3し (おわり)
 もどる	 もどる
リコーダーでひけたよ 	クロックンでひけたよ
☆〈流れ星〉の3し (おわり)	 もどる

イ 実践事例 (第6学年 歌唱)

8小節のフレーズごとに区切り、自分の歌えそうな部分から練習に取り組ませた。各パートの単旋律を歌って聴き合っていく活動を「学習1」、小集団相互も含めて各パートを重ねながら歌って聴き合う活動を「学習2」とし、学習過程を明確にした。そうしたことにより、児童が今自分はどのくらいのことのできているのかを知り、次は何を練習したらいいのかという目的意識がもてるようになった。(資料2)

「歌よ ありがとう」 チャレンジカード

♪ シングアソング



学習1		学習2	
音程	大きな声	合唱	重唱



★リズムに気をつけよう

◆ 歌声いつまでも



学習1		学習2	
音程	大きな声	合唱	重唱



★bの音に気をつけよう

▼ ラララ(中音)



学習1		学習2	
音程	大きな声	高音と	低音と

★よくおもきいて

スペシャル

ウ 考察

「チャレンジカードをまたやってみたいですか」というアンケートに、ほとんどの児童が「またやってみたい」と答えた。その理由としては「うまくなりたい」「自分の目標ができる」といった自分に関するものが多かった。また、チャレンジカードは、個人の学習活動の見通しがもてるように考えたものであるが、「友達と仲よくやりたい」「あの子はあれを頑張りたいんだなと分かるから」といったような友達のことを考えている理由もあった。

このことからチャレンジカードは、意欲や目的意識を持続させて自分を高めていくだけでなく、友達とのかかわりを深めていくのに有効であったと考えられる。しかし、「むずかしい」「おもしろくない」と感じている児童も数名おり、学習が遅れがちな児童への配慮が十分でなかったことも考えられる。今後は児童一人一人に応じた支援のための補助的な活動をさらに考える必要がある。

(4) 選択の場を多く設定した学習過程

学習過程の中に、児童が自分たちで選択できる場面を多く設定し、思いや願いが多様な活動を通して実現できるようにした。また、一人一人が身に付けた力を生かした方法を選択し、発想をより生かせる工夫のできる事が、身に付けた力を生かして進んで音楽活動することにつながると思った。

実践事例（第6学年 器楽）

ア 題材名「自分たちのアンサンブルをつくろう」

イ 題材の目標

- ・自分たちのイメージを生かして、アンサンブルを工夫するようにする。
- ・友達と気持ちを合わせて、アンサンブルを演奏するようにする。

ウ 教材 「ラバース コンチェルト」

エ 研究主題との関連

身に付けた力を生かして進んで音楽活動をするために、身に付けた力を生かせる発想・方法・工夫を重視し、自分たちで選択する場面を学習過程の中に多く設定した。

<身に付けた力を生かして>

(7) 児童が自分で選択し、活動できるような指導計画を工夫する。

- ・パートを選択する
- ・楽器を選択する

(4) 児童の発想を大切にし、身に付けた力を生かして工夫できるような場面を設定する。

- ・イメージを考える
- ・編曲や変奏の工夫をする（旋律の変化、リズムの変化、パートをふやす、かざりのふしを加える、前奏をつくる、パートによっては編曲や変奏をしない等）
- ・音色や奏法、強弱、速度などを工夫する

<進んで音楽とかかわる>

児童の発想をもとに学習課題を決定し、意欲を持って進んで取り組めるようにする。

- ・児童の発想をもとに曲名を決める
- ・児童の発想をもとに、曲名に合う工夫をする

オ 主な学習活動と選択や工夫の場の児童の様子

主な学習活動（選択や工夫◆）	児童の様子
<第一次>曲の構成や各パートの特徴をつかむ	
第1時	
・リコーダーで演奏する	◆、パートの選択 A児 ふしがきれいでわかりやすいから、①がいいな B児 ちがう感じがして②がおもしろいよ C児 長い音が多くて、ぼくは③がやりやすいな D児 リズムがかっこいいから、私は④をやってみたいな
・グループでパート分担を決める◆	
第2時	
・グループでリコーダーアンサンブルをする	

＜第二次＞自分たちのイメージに合ったアンサンブルを工夫する

第3時

・グループで自分たちの演奏したいアンサンブルのイメージを話し合う

◆₂

・イメージに合う曲名を考える◆₃
・曲名に合う変奏や編曲の方法を話し合う◆₄

・曲名に合う楽器を選ぶ◆₅

第4時

・担当した楽器で、楽譜通りに演奏する

・グループでイメージに合う変奏や編曲を工夫する◆₆

第5時

・グループごとに完成したところまで発表し、意見を交換する

・意見を参考にして、最後まで完成させる

・できた部分を発表する

第6時

・全曲通して演奏し、発表の準備をする

第7時

・発表して聴き合う

◆₂ イメージを考える ◆₃ 曲名を考える

1班 カウボーイが馬で走っているような、楽しくは
ずむ感じの「ラバース カウボーイ」

2班 ○君のイメージで「○○ コンチェルト」

3班 オルゴールみたいに響く音色の「オルゴールコ
ンチェルト」

4班 オーケストラのコンサートみたいな音にしたい
から「ラバース コンサート」

◆₄ 変奏や編曲の方法の選択 ◆₅ 楽器の選択

1班 ②と④を木琴ではずむリズムに変えてみよう
④はバス木琴だよ

2班 リコーダーでふしの区切りにかざりをつけよう
②は「こと」でおもしろい音だよ

3班 鉄琴やグロッケンの音を使おう
③を細かい音にするとどうかな

4班 ①はキーボードでバイオリンの音色にしよう
音を増やしてたくさん重ねると、オーケストラの
感じが出るかな

◆₆ 変奏や編曲の工夫

1班 馬が走る「パカラッチョ」のリズムにしたよ

2班 かざりのふしは○さんとよびかけるようなリズム
だよ木琴で楽しい前奏もつくったよ

3班 音をのばすと響く感じがするかな
グリッサンドでかざりを入れてきれいにしたよ

4班 ①は第2バイオリンみたいに下のふしをつくっ
て重ねたよ ③も鉄琴の音をふやしたよ

カ 考察

一人一人が身に付けた力を生かして楽器やパートを選択し、発想を生かして変奏や編曲の方法を工夫することで、児童が進んで音楽活動に取り組む様子が見られた。また、児童の感想から、自分に合った方法で活動する中で自分の力を生かせることを実感し、自分の発想が尊重され音として実現していくことで、一人一人の活動の意欲につながるこがうかがえた。

表現形態の選択は取り組みやすいものであるが、それが役割を分担することにとどまらず、音楽的な質の深まりをめざすことが大切である。また、課題別グループの中では、一人一人の児童を生かしていく場面もある。グループの課題をもとにした個人の課題が必要である。

(5) 学習過程の明確化

学習の流れを明確にすることにより、児童は見通しをもって学習し、自分たちの活動の最終的なイメージや、そこに至るまでの段階をより具体的に予想できる。そして、一つ一つの活動の意味や次の活動予定をつかむことで、児童は、自分の課題や活動の目的をより明確にとらえることができる。このことが、進んで音楽活動をするにつながると考え、前述の(4)の実践事例(第6学年)で以下の実践をした。

ア 実践事例 (第6学年 器楽)

前述の事例では、題材名「自分たちのアンサンブルをつくろう」を、児童には「変身!『ラバース コンチェルト』」と提示した。そして学習過程を明確にするために、次の通りの学習の流れを掲示し、児童がいつでも確認できるようにした。

変身!「ラバース コンチェルト」

- 1 リコーダーで演奏しよう
- 2 どんな曲にするか考えよう
 - ・曲名をつけよう
 - ・解説を書こう
 - ・楽器を決めよう
- 3 自分たちの「○○○○ コンチェルト」をつくろう
 - ・楽ふどおりに合奏しよう
 - ・曲名に合う工夫をしよう
 - ・できたところまで発表しよう
 - ・きき合って意見を出し合おう
 - ・意見を参考にして、最後まで完成させよう
- 4 発表の準備をしよう
 - ・曲名に合う音で演奏しよう
- 5 発表会をしよう
 - ・楽しく演奏しよう
 - ・友達のよい工夫を見つけよう

〈児童のカードから〉

(班名)		
曲名		
「オルゴールコンチェルト」		
解説		
・オルゴールみたいに、ひびく感じにする。		
・リコーダーでやる時の速さ		
・③の音を変えた。(リズム)		
・①にかざりをつけた。		
	楽 器	名 前
①	グ ロ ッ ク	
②	リ コ ー ダ ー	
③	オルガン	
④	鉄琴	

イ 考察

授業では学習の流れを常時掲示し、毎時間の授業でその中の位置を示して本時の段階や活動内容を確認した。そうすることにより、児童は本時の活動の目的や課題をより具体的にもつことができた。さらに、グループごとの活動のめあてや内容も同時に掲示したり、学習カードに記録したりすることで、前時までの活動を振り返ることができ、次の活動に進みやすくなった。また、本題材全体の予定時間数を知らせたり、次時の学習内容の予告をしたりすることで、児童が時間配分を意識して自主的に活動することへつながった。

以上のことから、学習過程を明確にすることが、児童が進んで音楽とかかわるうえで重要であることが明らかになってきた。

(6) 身に付けさせたい力を教師が提示し支援した指導事例

歌唱表現に対する一人一人の思いをつかむためのアンケートにより、児童の情意面と技能面の実態が明らかになった。それをもとにさらに身に付けさせたい力を教師が提示し、常に児童に意識させることで、力の定着と向上が図れるのではないかと考えた。また、曲想の違う曲を2曲に絞って取り上げた。それは、児童が希望する曲を選ぶことで、思いを生かして表現できるのではないかと、あるいは曲想の違いを感じ取ったり表現を工夫したりして、進んで音楽とかわることができるのではないかと考えたからである。

実践事例（第4学年 歌唱）

ア 題材名「のびのびと歌おう」

イ 題材の目標

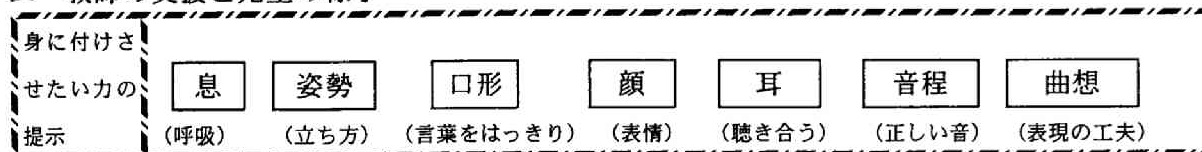
- ・自然で無理のない声で歌う
- ・友だちと声を合わせて歌う楽しみを味わう
- ・曲想を感じ取り、思いを込めて歌う

ウ 教材と教材選択の理由について

「ぼくらのクラス」は、元気で歯切れよく、親しみやすい歌詞であるため、子どもたちがリズムに乗って楽しく歌える曲である。

「友だち」は、中学年の児童にとって心情的に理解しやすい歌詞で、なめらかなふしに気持ちを込めて歌いやすい曲である。

エ 教師の支援と児童の様子



	「ぼくらのクラス」グループ A児の様子や活動	「友だち」グループ B児の様子や活動
第 一 次 曲 の 感 じ を つ か む	<p>様子</p> <p>歌うことにあまり意欲的ではない。口の開け方や声 が小さい。</p> <p>つぶやき</p> <p>高い声がでない。のどがかわくから歌はいやだな。 きれいな声は変な感じがする。</p> <p>教師の支援</p> <p>「顔全体で息を吸ってごらん。姿勢に気を付けよう。」 「もう少し口を動かそうよ。「ヤッホホ」はむこうの 校舎まで届くように歌ってみよう。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>活動の変容</p> <p>歌い始めの息の吸い方に気を付けようという様子が</p>	<p>様子</p> <p>歌うことは嫌いではない。地声で声を大きく張り 上げて歌う。音程がピアノの音や周りの児童の声 と違っていても気にせず歌う</p> <p>つぶやき</p> <p>のどがいたいなあ。もっと声が出せるようにがん ばりたい</p> <p>教師の支援</p> <p>「顔全体で息を吸ってごらん。姿勢に気を付けよう。 隣に座っている友だちに聴かせてあげるように歌 ってみよう。」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>活動の変容</p>

	見られた。	やさしい声で歌おうとする意欲が感じられた。
第二次曲の歌い方を工夫する	<p>グループ内での様子</p> <p>大切に歌いたいところを相談する時間では友だちの話を静かに聴いていた。</p> <p>グループで練習するときは口を動かしている。</p> <p>グループ内では「ルルル〜」「ファイトファイトファイト」「歌え歌え高く」「進め進め強く」を大切に歌おうと話がまとまる。</p> <p>同じグループの児童のアンケートから</p> <p>元気になる。明るくていい感じ。楽しい感じがすき。</p> <p>歌っていて気持ちがいい。大きな口で元気よく歌う。高い声をきれいにしたい。みんなに声を合わせて歌う。「ルルル〜」はやさしく歌う</p> <p>教師の支援</p> <p>「今日の口の開け方はよかったよ。いい顔をして歌っていたね。」</p> <p>↓</p> <p>A児のアンケートから</p> <p>気持ちを込めて歌う。声をもっと大きいです。</p>	<p>グループ内での様子</p> <p>友だちに「〇君の声がでかすぎる」と言われる。困った表情をしたり「みんなが声をだしてくれないんだから〜」と反論したりしている。</p> <p>グループ内では「でも 今日から友だちだね」「いっしょにすごすいろんな時がとても楽しみだね」「さみしいとき くやしいとき 楽しいとき うれしいとき」を大切に歌おうと話がまとまる。</p> <p>同じグループの児童のアンケートから</p> <p>ゆっくりで歌いやすい。ピアノがきれい。友だちとなかよくできそう。きれいな声がだせるところが好き。やさしく、心を込めて歌いたい</p> <p>教師の支援</p> <p>B児へは「歌っていてCさんの声は聴こえてる？」</p> <p>他の児童へは「Bと同じくらいの声の大きさで歌おうよ」と助言</p> <p>↓</p> <p>B児のアンケートから</p> <p>「でも」と「とても楽しみだねー」と伸ばすところをやさしく歌いたい</p>
第三次発表	<p>歌声の変容</p> <p>以前に比べたら口が少し大きくあくようになった。</p> <p>A児の感想・・・緊張した。歌が少し楽しくなった。</p>	<p>歌声の変容</p> <p>まわりの友だちの声に合わせてやさしい声で歌うようになった。</p> <p>B児の感想・・・みんなの声といっしょになってよかった。大切に歌うところがちゃんとできた。</p>

オ 考察

児童が歌うことが楽しいとは感じていなかったり、自分の声や友だちの声を聴きながら歌うことに気付いていなかったりしたため、曲想の違う2つの曲を歌い比べたり、曲を選んでグループ練習をしたりする活動を設定した。そして、教師が発声、呼吸、姿勢や表現の工夫などについて児童に提示し、具体的に支援をすることで歌うことに慣れたり、曲想の違いに気付いて歌への意欲を深められたりして、意欲的に歌う児童が次第に増えてきた。また、自分の声や友だちの声の変化も感じ取れるようになっていった。

このように、中学年の児童にとっては、身に付けた力を生かして、進んで音楽にかかわっていくためには、教師が具体的な手だてを提示していくことが有効であると考えられる。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

本研究を進めるにあたっては、一人一人の児童がその力を十分に発揮し、充実した音楽活動ができるようにしたいという研究員共通の思いがあった。そこを出発点とし、テーマを設定して論議と授業研究で検証を重ね、研究を深めた。その結果、研究の成果と課題として以下のことが明らかになった。

『成果』

- 1 音楽活動をするために必要な力は、情意と技能の両面にあり、学習を進める中で相互に関連し合い、互いに高まっていくことを授業の実践を通して実感できた。また、情意面においては、児童の音楽活動に対する思いや願いを知ることで、学習過程や学習活動を工夫する手掛かりになった。
- 2 児童の意識の変化を丁寧に見ることで、学習に対する充実度や達成度、満足度を知ることができた。また、技能面においては、児童一人一人が現在もっている力を分析することで、今どのような活動ができるのか、さらに、今後どのような力を付けさせたいかが明確になってきた。
- 3 身に付けた力を分析することにより、その力を生かした授業の展開を工夫することができた。特に、スモールステップや複数で多様な学習過程を用意したことにより、児童一人一人の意欲を持続させたり、一人一人に応じた支援をしたりすることができた。

『課題』

- 1 身に付けた力を把握するための観点や項目は、題材や教材に合わせて、より適切で具体的にする必要はある。
- 2 身に付けた力やその定着度については、より客観性が高く分かりやすい基準が必要である。
- 3 本研究では小集団をはじめとして少人数での活動が多かったが、今後は少人数での音楽活動と多人数での音楽活動との関連を追究する必要がある。
- 4 本年度は歌唱と器楽における検証授業にとどまったので、今後、鑑賞についても授業を通して研究を深める必要がある。

研究期間中においては、解決しては検討し、再び解決してまた検討することの繰り返しが続いた。振り返ると、1年間という期間がこの研究を進めるのに実に短い時間であったことを実感させられる。また、研究を続けると、当然であると思われていたことについて、改めてその価値に気付くことがある。本文中のアンケートやグループ活動についての検討が、そのことをよく示していた。

本研究は、授業改善のための出発点である。今後さらに、児童が身に付けている基礎・基本と現在学習を進める中で児童が身に付けつつある力との適切な把握に努め、音楽が好きで、現在も将来も自ら音楽を求めることができるための能力や態度をすべての児童に育てたい。そのためには、残された課題と正面から向き合い、指導計画の充実・改善の下、日々の授業で児童の姿を見失うことなく実践を重ねていきたいと考えている。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録
平成13年度 第41号〕

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン